

氏名	荻原 千鶴 OGIHARA Chiduru
所属 職名	人間文化創成科学研究科文化科学系 教授
学位	博士（人文科学）（1996 お茶の水女子大学）
専門分野	日本文学、特に日本上代文学
URL	
E-mail	iwasaki.ogihara.chizuru@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

古事記
風土記
万葉集

Kojiki
Fudoki
Man'yoshu

主要業績

論文（単著）「『古事記』『日本書紀』の〈終わり〉」『国文学解釈と鑑賞』第75巻3号（ぎょうせい）14?22頁 2010年3月 ※前年度業績の補足

論文（単著）「『万葉集』の挽歌」『日本古典文学における異文化交流とその展開をたどる』（建国日本文化言語学会）5?13頁 2010年11月

論文（単著）「書評 中川ゆかり著『上代散文 その表現の試み』『萬葉』第208号（萬葉学会） 59?68頁 2011年3月

研究内容 / Research Pursuits

1.古事記』『日本書紀』の終わり方について、前者が過去の一時代を画すのに対し、後者が未来への継続性を開く点に、対照性がみられることを指摘した。2.万葉集』の挽歌がその始発期において、「見る」ことへの希求をもつことを指摘し、それが万葉第二期・第三期に多様に展開する様を明らかにし、晩歌史構築の一部とした。3.上代散文に関する研究の到達点と問題点を指摘しその、研究史上における意味について考究した。

1.The end of Kojiki and of Nihonsyoki I declared the end of Kojiki emblems the end of the ancient times,and the end of Nihonshoki constrastively emblems the continuity to the future.That means they had compiled on different aims or purposes. 2.Laments i

■ 教育内容 / Educational Pursuits

学部では、日本古典文学史論（上代）・日本言語文化概論・日本上代文学特殊講義?・日本古典文学論基礎演習?・日本古典文学論演習（上代）・日本文学研究指導の授業を担当した。このうち文学史は、記紀・風土記を中心に文学の史的展開について講じた。特殊講義では日本上代文学における叙景表現の特性や変容を考察する教育を行った。基礎演習では日本文学を研究するにあたっての基礎的トレーニングを、演習では日本上代文学を研究するにあたってのトレーニングを指導した。日本文学研究指導では、学生の卒業論文作成のための指導を行った。大学院博士前期課程では、日本上代文学表現史論演習・日本上代文学演習の授業を担当した。前者では『古事記』『日本書紀』の海宮遊行章を取り上げ、異伝分析について講じた。後者では、神話的叙述をもつ柿本人麻呂歌を取り上げ、その神話引用手法について講じた。

Under graduate courses: Basic seminars. Introduction to Japanese Language and Culture. History of ancient Japanese literature. Advanced seminar of ancient Japanese literature. Advanced lectures in ancient Japanese literature. Seminar of introduction to J

■ 研究計画

西海道風土記・出雲国風土記を中心に、その構想のあり方についての研究を深める。『古事記』『万葉集』と風土記記事との連関性についての考察へと進展させる。

■ メッセージ

『古事記』『風土記』『万葉集』など日本上代の文学は、1300年も前に書かれたものです。古代の人々の、現代とは大きく異なるものの考え方・感じ方がうかがえますが、それだけにかえて、現代の私たちの中に埋没してしまっているものを、はっと気づかせてくれたりするのです。古代の人々が自然に対して抱いた畏怖の念は、大きな災害を体験した今日の私たちに対して、訴えかけるものをもっているように思います。古典を学び研究することは、現代を考えることにつながると、私は思います。高校の授業ではあまりなじみがないかもしれませんが、上代の作品にも、ぜひ目を向けてみてください。新鮮な驚きと意外な共感をおぼえる新しい「自分」に、出会えると思いますよ。